

## 視点(1637)

### iPS細胞の発想とノーベル賞!!

(思考と研究の概念編)

日本の山中伸弥教授(京都大学iPS細胞研究所所長・50歳)が「iPS細胞作成」(成熟した細胞を多様性を持つ状態に初期化できることの発見)でノーベル医学生理学賞を授与されました。日本で19人目のノーベル賞受賞者で、我々日本人の誇りであり日本の荣誉です。

「山中教授は2006年にマウスの皮膚細胞に4種類の遺伝子を入れることで、あらゆる組織や臓器に分化する能力と高い増殖能力を持つ“人工多能性幹細胞(iPS細胞)”を作り出すことに成功し、拒絶反応の少ない再生医療や難病の仕組みの解明などにつながる革新的な功績が評価され、最初の成果が米科学誌に掲載されてから6年余という異例のスピード受賞となった。」(毎日新聞2012年10月9日朝刊より)

私は山中教授のノーベル賞受賞について、次の3つの点に注目しました。

#### (1) 未来の成果への偉大なる期待感に対する受賞

博士号は今までなかった現象を体系化し理論化すれば得ることができますが、ノーベル賞は成果(世の中への偉大なる貢献)がなければ、一般的には受賞することができません。しかし、山中教授のiPS細胞作成は画期的な発見ですが、現在はiPS細胞の応用メカニズムの研究中であり、実際にはまだ具体的に再生医療による治療や難病の治療に使われていません。まだ成果のない「未来の大器」に対するノーベル賞の授与は、いかに山中教授が発見したiPS細胞が未来の医療業界に大きな役割を果たすという偉大なる成果への期待感があるためと思われる。

#### (2) 過去の延長線上ではない未来からの発想の偉業に対する受賞

医療業界は「治療=診療+投薬+検査+予防」であり、手術も薬による治療も何千年も前から行われており、現在の治療はその進化形態で、今までの医学生理学賞の受賞者は、過去の延長線上の偉大なる発見者及び応用者でした。山中教授のiPS細胞の発見と今後期待される応用手法は、医療業界の過去の延長線上ではなく、今までとは「次元の異なる未来からの発想」に基づく医療技術です。手や口や心臓などに成熟した細胞を元の状態にリセットして、再び手や口や心臓を新しく作り出す治療方法は、再度プログラミングに戻す細胞の初期化(リセット)の再生医療による治療です。医療業界のみならず、我々流通業界や産業界においても、過去の延長線ではない未来からの発想による経営戦略や技術革新があります。ICT業界(情報通信技術業界)も20世紀型のコンピューターによる情報処理の量と速度の時代(IBM時代)から、「クラウド」「ビッグデータ」「SNS」「ユビキタス」「AI(人工知能)」…等の情報の概念が過去とは全く異なる未来からの発想の概念に変わりました。また、消費も17世紀・18世紀の産業革命以来の大量生産・大量販売・大量消費のモダン消費経済システムが、アメリカでは1971年、日本では1988年にモノ離れ現象が起こり、ポストモダン消費(過渡期)を経て、未来からの発想である「ニューモダン消費経済」へと進み、21世紀型経済の基軸になろうとしています。21世紀は政治の社会、経済の社会、消費の社会、産業の社会、医療の社会…等において、17世紀・18世紀・19世紀と続いてきた潮流が21世紀になって大変革しています。

#### (3) 独占を目指さない知的財産権としての受賞

山中教授は特許を取得しますが、それは独占権を得るための特許取得ではなく、広く多くの医療業界に携わる人々にリーズナブルな適正価格で提供し、広くiPS細胞を活用して医療の進歩に役立てようとしています。どこかの国の「へんてこりんな知的財産権」で権利を主張する野蛮的行為ではなく、まさに「文化人としての行動」です。

(株)ダイナミックマーケティング社<sup>+</sup>  
代表 六 軍 秀 之